

平成 26 年度

事務点検評価結果報告書

(平成 25 年度実施事業)

蕨市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	1
II	点検評価の基本方針	1
1	目的	
2	点検評価の対象及び方法	
3	蕨市教育行政の主要施策	2
III	点検評価の結果	3
IV	今後の取り組みについて	3
平成25年度 施策評価シート		
(1) 学校教育		
1	教育内容の充実	
①	自ら学び自ら考える「生きる力」の育成	4
②	魅力ある教育活動の展開	5
③	特別支援教育の充実	6
④	教職員の資質向上と教育研究の推進	7
2	心身ともに健やかな児童・生徒の育成	
①	豊かな心を育む活動の充実	8
②	健やかな体づくりの支援	9
3	学校環境の向上	
①	学校安全の向上	10
4	地域に根ざした教育の展開	
①	学校と家庭、地域社会の連携	11
②	学校間交流の推進	12
③	教育にかかわる支援策の推進	13
(2) 生涯学習		
1	市民主体の生涯学習の推進	
①	推進体制の充実	14
②	充実した学習機会の提供	15
③	学習環境の充実	16
2	健やかな青少年を育てる環境の充実	
①	多彩な学習機会の拡充	17
②	青少年健全育成の推進	18
③	社会参加の促進	19
3	家庭教育の支援	
①	家庭教育の支援	20
(3) 文化振興		
1	芸術文化活動の振興	
①	創作活動への支援	21
②	鑑賞機会の充実	22
③	芸術文化の地域づくりへの活用	23
2	地域に根付いた文化の保存と活用	
①	地域資料の収集・調査研究	24
②	文化財に触れる機会の充実	25
③	歴史文化の地域づくりへの活用	26
(4) スポーツ・レクリエーション		
1	スポーツ・レクリエーション活動の振興	
①	生涯スポーツ推進体制の整備・充実	27
②	活動機会の充実と地域づくりの推進	28
2	健康・体力づくりの推進	
①	健康・体力づくりの推進	29

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、蕨市教育委員会が行った点検評価の結果をまとめたものです。

## II 点検評価の基本方針

### 1 目的

法改正を受け、蕨市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することといたしました。

この点検評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

### 2 点検評価の対象及び方法

蕨市教育行政の主要施策については、第4次蕨市総合振興計画（改訂基本計画）の施策の体系である分野別計画の②「豊かな人間性を育むために（教育・文化）」において、取り組むべき施策が掲げられており、これらの中から26の事業について、点検評価を実施いたしました。

なお、この点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する方など外部の方々に、施策についての評価をいただくとともに、様々なご意見、ご助言をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

(敬称略)

氏 名	所 属 等 ( 現 職 等 )
佐藤 一子	法政大学 教授
前野 まゆみ	蕨市PTA連合会 会長

### 3 蕨市教育行政の主要施策

第4次蕨市総合振興計画（改訂基本計画）の施策の体系である分野別計画の②「豊かな人間性を育むために（教育・文化）」

施策（大柱）	No.	施策（中柱）	No.	施策（小柱）	事業名	備考
(1) 学校教育	1	教育内容の充実	①	自ら学び自ら考える「生きる力」の育成	1 指定校等研究委託事業	継続
			②	魅力ある教育活動の展開	2 少人数学級推進事業	継続
			③	特別支援教育の充実	3 特別支援員配置事業	継続
			④	教職員の資質向上と教育研究の推進	4 教職員企業体験研修事業	継続
	2	心身ともに健やかな児童・生徒の育成	①	豊かな心を育む活動の充実	5 さわやか相談員事業	継続
			②	健やかな体づくりの支援	6 食育の推進事業（地元農産物を活用した給食の提供及び生産者との交流給食）	継続
	3	学校環境の向上	①	学校安全の向上	7 小・中学校施設の耐震化事業	継続
	4	地域に根ざした教育の展開	①	学校と家庭、地域社会の連携	8 学校応援団事業	継続
			②	学校間交流の推進	9 学校間交流事業	継続
			③	教育にかかわる支援策の推進	10 入学資金貸付事業	継続
(2) 生涯学習	1	市民主体の生涯学習の推進	①	推進体制の充実	11 地区生涯学習連絡会事業	継続
			②	充実した学習機会の提供	12 現代的な課題 シニア世代講座事業	継続
			③	学習環境の充実	13 図書資料の貸出(予約)事業	継続
	2	健やかな青少年を育てる環境の充実	①	多彩な学習機会の充実	14 信濃わらび山荘管理運営事業	継続
			②	青少年健全育成の推進	15 合宿通学事業	継続
			③	社会参加の促進	16 放課後子ども教室推進事業	継続
	3	家庭教育の支援	①	家庭教育の支援	17 家庭教育学級事業	継続
(3) 文化振興	1	芸術文化活動の振興	①	創作活動への支援	18 地区生涯学習フェスティバル事業	継続
			②	鑑賞機会の充実	19 蕨市公募美術展覧会事業	継続
			③	芸術文化の地域づくりへの活用	20 地域に音楽を広めるコンサート開催事業	継続
	2	地域に根付いた文化の保存と活用	①	地域資料の収集・調査研究	21 蕨市の歴史・文化に関する情報提供事業	継続
			②	文化財に触れる機会の充実	22 特別展等開催事業	継続
			③	歴史文化の地域づくりへの活用	23 歴史民俗資料館分館公開事業	継続
(4) スポーツ・レクリエーション	1	スポーツ・レクリエーション活動の振興	①	生涯スポーツ推進体制の整備・充実	24 スポーツ・レクリエーション団体支援事業（体育協会）	継続
			②	活動機会の充実と地域づくりの推進	25 プール管理運営事業	継続
	2	健康・体力づくりの推進	①	健康・体力づくりの推進	26 健康・体力づくり推進事業	継続

### Ⅲ 点検評価の結果

評価につきましては、各施策の目標が「達成されている」をA、「どちらかという  
と達成されている」をB、「どちらかというとな達成されていない」をC、「達成  
されていない」をDとする4段階の評価を行いました。

全26事業の外部評価結果は、A評価17事業、B評価6事業、C評価3事業と  
なり、教育委員会が外部評価に先立ち行った内部（自己）評価よりも、若干良い  
評価結果となりました。

評価コメントには、各施策の目標達成に向けて、今後も事業の改善や事業内容の  
充実に取り組み、施策のより一層の充実を求めるとの意見が多く見られました。

施策の大柱	総合評価（内部評価）				外部評価			
	A	B	C	D	A	B	C	D
(1) 学校教育	7	2	1	0	7	2	1	0
(2) 生涯学習	4	2	1	0	4	2	1	0
(3) 文化振興	3	3	0	0	4	2	0	0
(4) スポーツ・ レクリエーション	2	0	1	0	2	0	1	0
合 計	16	7	3	0	17	6	3	0

### Ⅳ 今後の取り組みについて

教育委員会では、点検評価結果を踏まえて、効果的な教育行政を推進していくた  
め、以下のような取り組みを行います。

今回の外部評価結果及び評価コメントを受けて、これまでの取り組みと成果、残  
されている課題及び評価結果をふまえた今後の取り組みについて再度検証し、実現  
可能なことから順次改善等を行うとともに、事業費を必要とするものは経費の予算  
化も併せて検討してまいります。また、施策の達成度を明示化するための活動指標、  
成果指標及びコスト指標については、より施策の取り組みがわかりやすいものとな  
るように、引き続き研究してまいります。

今後も施策の点検評価を継続し、効果的な教育行政を推進してまいります。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	1 教育内容の充実
施策（小柱）	① 自ら学び自ら考える「生きる力」の育成		

事業名	指定校等研究委託事業
事業の目的	各学校における教育研究を一層推進するとともに、他校にもその研究成果を広め、指導力の向上を図る。
事業の内容	各学校に教育課程や指導法等の研究を委託する。学校等は、研究期間に応じて取り組みを進め、研究成果を発表し、成果を広める。
事業の対象	蕨市立小・中学校

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 研究を委嘱した教員数（人）	255	271	267	258	A	258
成果指標 研究実施教員の割合（%）	100	100	100	100	A	100
コスト指標 1人当たりの研究費（円）	8,882	7,550	7,663	7,930	A	10,194

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	1,170,000	1,170,000	1,170,000	1,170,000
	人件費	1,095,000	876,000	876,000	1,460,000
	合計	2,265,000	2,046,000	2,046,000	2,630,000

### これまでの取り組みと成果について

全ての小・中学校が、指導法や教員個々の実践意欲の向上を目指して研究テーマを設定し研究を進め、教員の指導力向上を図った。さらに、その研究成果を委嘱研究発表会や研究紀要を通して発表した。委嘱研究発表会では、公開授業・研究授業、講演会を行い、全体会後の分科会等でも専門の指導者の指導・助言を受けている。年間をとおして指導法の研究を行っていくため、若手教員の指導力向上に大きく寄与している事業である。また、ベテラン教員の指導技術を若手に伝達するという点からも重要な事業である。

### 残されている課題について

本事業は市内小中学校全教員の指導力の向上が大きな目的である。全校で取り組んでいる委託研究を素地として、初任者研修、2・3年、7・8年次研修等の年次研修を活用しながら引き続き若手教員の育成を図っていく。また、各校の優れた研究については、他校にも積極的に紹介し、効果的な指導法を各校で取り入れていくように働きかけていく。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	多忙な日程の中でも、各学校が質の高い教育研究を推進し、若手教員をはじめ、全教員の指導力向上を図ることができるようサポートする。また、研究発表会では、市内各校から多くの参加者を募り、市全体に研究成果を還元できるように指導していく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	中堅教員の経験や子ども観が若手教員に継承されて、自信をもって教育指導がおこなわれるように、自由で率直な交流の機会となるよう、ていねいな実施を期待する。／研究の成果が、市全体で先生方の日常の指導に生かされることを期待する。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	1 教育内容の充実
施策（小柱）	② 魅力ある教育活動の展開		

事業名	少人数学級推進事業
事業の目的	小学校の学級編制の人数を35人程度以下とし、学級編制を少人数化することにより、学級担任の目が行き届いたきめ細かな教育指導を実施する。
事業の内容	市費により教員を採用し、小学校3～6年生における35人程度学級を実施する。
事業の対象	小学校第3～6学年のうち、県の基準による学級編成を行った場合35人を超える学級

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 35人程度実施学級数（学級）	53	71	69	69	A	67
成果指標 35人程度学級実施率（%）	100	100	100	100	A	100
コスト指標 1学級当たりの事業費（円）	533,623	514,549	524,377	482,941	A	399,956

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	27,262,000	34,708,000	31,015,000	24,753,000
	人件費	1,020,000	1,825,000	1,825,000	2,044,000
	合計	28,282,000	36,533,000	32,840,000	26,797,000

### これまでの取り組みと成果について

平成22年度に、初年度は3・4年生における35人程度学級を実施以来、平成23年度には5年生に、平成24年度は6年生にまで拡大した。これまで、4年間で、25名の市費教員を配置してきた。このことにより、学習指導・生活指導において、低学年との円滑な接続とともに、きめ細かな指導が行われている。また、市費、臨任、新採用がともに学ぶ研修会を開催し、資質の向上を図った。

### 残されている課題について

本事業の有効性を高めるためには、優れた教員を該当校に配置することが肝要であるが、臨時的任用者の恒常的な不足という課題を持つ埼玉県南部地区では、資質の高い教員を確保し続けることは、大変困難である。引き続き、教員の採用と育成という両面から、資質の確保に努める必要がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	①引き続き、広域の大学等への案内やポスター掲示を行い、多くの応募者の確保に努める。②現職の校長等の面接等をとおして、資質の高い教員の採用に努める。③指導主事等による市費による教員の指導育成訪問を実施し、個別に指導力の向上を図る。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	市費によって少人数学級をひろげていく施策は重要である。意欲をもつ若手教員の採用のきっかけにもつながるように、教員養成にも留意した施策を推進していただきたい。／少人数学級編成による、学級担任の目が行き届いた指導を今後もお願いしたい。

# 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	1 教育内容の充実
施策（小柱）	③ 特別支援教育の充実		

事業名	特別支援員配置事業
事業の目的	各学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。
事業の内容	市費により特別支援員を採用し、特別支援学級設置校及び特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級に在籍する学校に配置する。
事業の対象	特別支援学級児童生徒及び通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 要支援児童生徒数（人）	50	66	77	126	A	86
成果指標 対象者1名当たりの支援員の数（人）	0.18	0.15	0.13	0.08	C	0.11
コスト指標 要支援児童生徒数1人あたりの経費（円）	112,880	101,594	87,026	53,115	A	82,733

## 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	4,914,000	5,464,200	5,451,600	5,655,000
	人件費	730,000	1,241,000	1,241,000	1,460,000
	合計	5,644,000	6,705,200	6,692,600	7,115,000

## これまでの取り組みと成果について

小・中学校への支援員の配置により、担任等だけでは困難な個別の指導・支援が可能になり、個に応じた配慮やきめ細かな生活の介助、安全確保、学習指導等の充実が図られている。

## 残されている課題について

特別支援教育支援員については、通常学級における特別な配慮を要する児童生徒の増加により、年々需要が高まっている。特別支援教育支援員を安定的に配置するためにも、個に応じた適切な支援のできる人材を確保していく必要がある。また、特別支援教育支援員の活用状況や目的について随時確認する必要がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	今後も、支援員の質的量的な充実を図り、特別な支援が必要な児童生徒に対する十分な支援を行う必要がある。関係機関との連携や広報などを活用し、適格な人材の確保に努めていく。
	A	

## 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	要支援生徒数の実績値が増大しているという状況であるので、市教育委員会としての人材確保が必要になっている。個別対応に必要なケースが多いと思われるので、十分な支援態勢をつくっていただきたい。／個別指導が必要な児童生徒への対応を今後もお願いしたい。支援を必要とする生徒には様々な背景、成育歴などがあり、支援員の育成、配置だけでは難しい面もあるかと思われる。



# 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	1 教育内容の充実
施策（小柱）	④ 教職員の資質向上と教育研究の推進		

事業名	教職員企業体験研修事業
事業の目的	初任者研修修了後の教員が、地域の企業での業務体験を行うことで、地域社会との連携や視野の拡大、豊かな人間性・社会性を培い、資質の向上を図る。
事業の内容	夏季休業中に3日間の企業体験を行う。
事業の対象	蕨市立小・中学校教員（養護教諭を含む）

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 参加教員数（人）	12	12	10	11	A	14
成果指標 参加延べ日数（日）	60	36	30	33	A	42
コスト指標 参加1日のコスト（円）	13,167	21,944	26,333	23,964	A	19,333

## 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	60,000	60,000	60,827	82,000
	人件費	730,000	730,000	730,000	730,000
	合計	790,000	790,000	790,827	812,000

## これまでの取り組みと成果について

平成15年から始まったこの事業により、蕨市立小・中学校の教諭（養護教諭を含む）のほぼ全員が研修を修了し、教員の資質の向上や視野の拡大、意識改革を図ってきた。研修については、本人の意向を加味しながら進めているが、学校現場を離れての体験研修は、社会的な教養等を身に付ける貴重な機会となっている。また、地元企業でお世話になることで、地域を理解し、学校を支えてくれている方々に感謝し、地域に開かれた学校づくりの推進にもつながり、中学生ワーキングウィーク等で、多くの事業所が学校に協力してくれるようになった。

## 残されている課題について

年々若手教員の数が増え続け、この起業体験研修の受講者の数も増えてきており、新しい研修先（事業所）を開拓していかなければならない。また、3日間で得た知識や経験を、教員の資質の向上だけではなく、学校現場に直接生かしていけるような取組を考えていきたい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	研修に参加した教員についての地元企業からの評価はよいが、年々コスト指標が高くなってきており、今年度に関しては過去最高値になっている。その点をふまえ、26年度は予算を増額している。今後、参加教員には事前の研修会等での指導を徹底し、コストに見合う、有意義な研修になるよう配慮していきたい。
	B	

## 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	3日間の企業体験ということで、教員にとっては地域連携の土壌づくりにもなっているようである。地元社会と学校との連携を進める一環という意味で、他市からの転入教員の研修機会がうまく配分されるように実施上の工夫が必要であろう。／地元企業での体験研修で地域への理解も得られ、短期間ではあるが貴重な場だと思う。

# 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	2 心身ともに健やかな児童・生徒の育成
施策（小柱）	① 豊かな心を育む活動の充実		

事業名	さわやか相談員事業
事業の目的	悩みや問題を抱える児童生徒や保護者等の相談に応じることで、児童生徒がもつ悩みや問題を早期に発見し、学校・家庭・地域社会が連携してその解消を図り、児童生徒の健全な成長を促す。
事業の内容	各中学校にさわやか相談員を1名ずつ配置し、校区内の児童生徒や保護者等の相談にあたるとともに、その悩みや問題を早期に発見し、スクールカウンセラー、教職員、保護者及び地域の方々との連携を通して、その解消を図る。
事業の対象	生徒・保護者及び教職員

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 相談対象生徒数（人）	1,506	1,544	1,468	1,464	A	1,429
成果指標 相談延べ件数（件）	1,479	2,022	2,000	4,884	A	3,000
コスト指標 相談1件当たりのコスト（円）	4,519	3,388	3,562	1,403	A	2,375

## 決算額の推移（円）

決算額の状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	5,953,000	6,119,640	6,122,420	6,394,000
	人件費	730,000	730,000	730,000	730,000
	合計	6,683,000	6,849,640	6,852,420	7,124,000

## これまでの取り組みと成果について

県の中中学校配置相談員助成事業の助成を受け、市内3中学校にさわやか相談員を一人ずつ配置している。配置された相談員はそれぞれの資格や経験を生かしながら、意欲的に職務に取り組んでいる。、教育相談や相談室登校生徒の指導を中心に、校内教育相談部会への参加やスクールカウンセラーとの連携等、相談員ならではの能力を十分発揮している。さらには、市の教育相談室や学区内小学校との連携など、教育相談体制強化の推進役としても成果を上げている。特に市の教育相談室との連携は強化されており、不登校生徒の減少に貢献している。

## 残されている課題について

相談件数が昨年度に比べ倍増しているが、これは単に問題が増加したわけではなく、さわやか相談員連絡協議会において相談件数のカウント方法の統一を図るとともに、相互の相談体制に関する情報交換を通して、より積極的な相談活動を目指した結果であると考えられる。しかし、市内の不登校児童生徒数は増加傾向にあり、さわやか相談室が教室になかなか入れない生徒たちの唯一の居場所となっている現状を鑑みると、さわやか相談員に係る期待は大きい。また、いじめ問題の解消や保護者の相談への対応・対策等、一層の相談体制の充実が必要である。

総合評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A	これまで配置してきたさわやか相談員は、数値には表れない部分においても、児童生徒や保護者、そして学校をサポートしている。今後は相談員の資質向上を図るとともに、学級担任や学年教員との連携を深め、教育相談体制の更なる充実を図っていきたい。また、さわやか相談室のさらなる周知を図り、気軽に相談できる雰囲気醸成し、相談件数の増加にもつなげていきたい。
	（前回評価結果）	
A		

## 外部評価結果

外部評価	外部評価結果	評価コメント
	A	相談件数の増加は望ましいのかどうか、両面あると思うが、さわやか相談員に日常のささいなことでも相談する空気が生まれれば、いじめ等の防止効果にもなる。学校をささえる日常的なスタッフのように受け止められる環境づくりが必要であろう。／不登校児童生徒への対応に大変貢献されているとのことだが、それ以外の相談も気軽にできるよう、相談室利用の更なる周知をお願いしたい。

# 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために(教育・文化)
大柱	1 学校教育	施策(中柱)	2 心身ともに健やかな児童・生徒の育成
施策(小柱)	② 健やかな体づくりの支援		

事業名	食育の推進事業（地元農産物を活用した給食の提供及び生産者との交流給食）
事業の目的	地域で生産される農産物を「生きた教材」として活用することで、自然や文化、産業など地域の特性及び食材や食に関する理解を深めるとともに、生産者の努力を身近に感じることで、感謝の心を育み、食物を大切に作る、無駄にしない等の習慣を身につけることができるようにする。
事業の内容	各学期に1～3回程度、市内で生産された野菜を使用した給食を提供。周知については、献立表・給食だより・校内放送等を活用。また、年2回、生産や流通について学ぶ小学5年生児童を対象に、当日の給食で使用される野菜や資料に基づく生産者からの講話ののち、質疑応答も含めた交流給食を実施。
事業の対象	小・中学校の児童生徒及び小学校第5学年児童

施策(小柱)目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 農産物使用量(kg)	1,249	1,688	2,100	2,156	A	2,200
成果指標 提供回数(回)	5	6	9	8	B	9
コスト指標 1回ありの事業費(円)	121,800	111,667	82,778	99,125	B	89,333

## 決算額の推移(円)

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	339,000	400,000	523,000	534,000
	人件費	270,000	270,000	270,000	270,000
	合計	609,000	670,000	793,000	804,000

## これまでの取り組みと成果について

平成18年度より、蕨市での決して多くはない農地で野菜作りに励む農家の方々のご協力をいただき、学校給食への地元産野菜の導入を開始。19年度から、食に関する理解を深める一環として小学5年生児童を対象に生産者の方々との交流給食を実施。生産者から直接話しを伺うことにより、児童の食の安全や地域への理解、興味関心は高く、苦手な野菜を克服しようとする意欲も伺え、残菜の減量効果も得られた。

## 残されている課題について

取り組み開始当初じゃがいも・玉葱・長葱の3種類、400kg程度であった使用野菜も、計画的に生産していただくことにより平成25年度では8種類、2,156kgと種類・量ともに大幅に増加し、これに伴い給食提供回数も増加傾向にはあるが、一方で市街化の進展による農地の減少に加え、生産者の高齢化や後継者不足といった現実がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	高齢化や後継者不足といった現実があるなか、今後の地産地消と交流給食について、事業継続の方策や保護者の参加等も含めた充実について関係機関との連携を図りその手立てについて考える。
	B	

## 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	地産地消、交流給食の理念はしっかり貫いてほしい。蕨市は大きな消費地域でもあるので、埼玉県の農山村の物産などにも子どもの関心がむくよう、視点を広げた取り組みも有意義ではなかろうか。／様々な取り組みをしていただきありがたい。多忙な保護者への食育への理解を進めるような取り組みを期待する。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	3 学校環境の向上
施策（小柱）	① 学校安全の向上		

事業名	小・中学校施設の耐震化事業
事業の目的	次代を担う子どもたちが、安全・安心かつ時代に即応した快適な教育環境の中で学習できるようにすること
事業の内容	小・中学校施設の耐震化
事業の対象	小・中学校の学校施設

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 耐震化棟数（棟/年）	5	4	5	5	A	
成果指標 学校施設の耐震化率（%）	76.3	86.8	100.0	100.0	A	
コスト指標 1棟当りの事業費（千円）	26,291	111,637	219,054	187,222	A	

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状 況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	129,531,000	444,721,000	934,284,000	
	人件費	1,925,000	1,825,000	1,825,000	
	合計	131,456,000	446,546,000	936,109,000	

### これまでの取り組みと成果について

小・中学校施設の耐震化事業は、平成20年度から耐震補強工事に着手し、25年度に実施した小・中学校体育館5校5棟の耐震補強と大規模改修工事により、対象となる全ての学校施設の耐震化が完了した。

### 残されている課題について

平成25年度までに対象となる全ての学校施設の耐震化が完了したところであるが、26年度には構造上耐震性がある二中体育館のバスケットゴール・照明器具の落下防止工事とトイレ改修工事を実施する。今後は、校舎の防災機能強化とともに、施設の長寿命化を図るための大規模改修を行う必要がある。

総合 評 価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	全ての学校施設の耐震化は完了したが、校舎については防災機能強化とともに長寿命化対策が必要であるため、今後も関係部局との連携を図りつつ、これまでの外部評価結果もふまえ、耐震化の現状等についての情報提供を継続してまいります。
	A	

### 外部評価結果

外部 評 価	外部評価結果	評価コメント
	A	計画的に耐震化が完了し、今後は日常的な防災のしくみづくりや訓練など、ひきつづき子どもと保護者への情報提供をお願いしたい。/今後も計画的に必要な改修をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	4 地域に根ざした教育の展開
施策（小柱）	① 学校と家庭、地域社会の連携		

事業名	学校応援団事業
事業の目的	学校・家庭・地域社会が一体となって取り組みを推進し、学校の活性化と家庭や地域の教育力の向上を図る。
事業の内容	家庭・地域社会と協力した、各校における「学校応援団」組織の実施。
事業の対象	各学校（児童生徒）及び学校に関わる家庭・地域社会の方々

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 延べ事業数（件）	44	38	40	39	A	40
成果指標 各校応援団人数（人）	810	802	500	753	A	800
コスト指標 1人当たりの事業費（円）	406	586	1,150	622	A	738

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	107,000	104,580	103,050	225,000
	人件費	222,000	365,000	365,000	365,000
	合計	329,000	469,580	468,050	590,000

### これまでの取り組みと成果について

蕨市では県の学校応援団事業の先駆けとして学校ボランティア制度を取り入れており、現在は各学校のコーディネーターを中心に学校ボランティアを充実・発展させて学校応援団としている。市内全校で学校応援団が組織されており、教育環境の整備や児童生徒の安全確保などの活動に取り組んでいる。学校応援団事業が始まってから10年目になり、学校と保護者、地域の方々との協力体制が確立されてきている。

### 残されている課題について

市内小中学校における学校応援団の組織率は100%であり、学校、保護者、地域の方々に学校応援団事業が浸透してきた。学校応援団の活動をより充実させるためにも、各学校の実態に応じて活動内容や活動回数の見直しを図る必要がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	これまでの取組により、学校・家庭・地域に学校応援団が浸透してきたが、今後もコーディネーターを中心に学校の実態に応じた活動計画を立案し、学校応援団に登録している保護者や地域の方々を有効に活用できるようにしていく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	学校応援団の組織化と住民の協力という点では定着をみている。他方で活動内容をそれぞれ学校ごとに工夫し、忙しい保護者でも参加できるきっかけづくりなど、懇談や交流を深めて、この組織をどう活用していくかが課題であろう。／運営方法については、まだまだ改善の余地があると思われる。



## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	4 地域に根ざした教育の展開
施策（小柱）	② 学校間交流の推進		

事業名	学校間交流事業
事業の目的	幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校など、異校種間で連携し、特色を生かした学校間交流を図る。
事業の内容	各小中学校が近隣の幼稚園、保育園や高等学校と連携した取り組みを実施する。
事業の対象	蕨市立の小中学校、及び近隣の幼稚園、保育園、高等学校 等

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 実施学校数（校）	10	10	10	10	A	10
成果指標 実施児童生徒数（人）	4,515	4,451	4,370	4,370	A	4,288
コスト指標 1人当たりの事業費（円）	80	82	84	84	A	85

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	0	0	0	0
	人件費	365,000	365,000	365,000	365,000
	合計	365,000	365,000	365,000	365,000

### これまでの取り組みと成果について

幼保小間交流では、授業参観や体験入学を行っている。小中間交流では、あいさつ運動、出前授業、スポーツ交流、6年生対象学校公開（小学生が中学校の授業を参観する体験入学）を行っている。  
小高間交流では、蕨高校の生徒が小学校の学級に入り児童と交流を行っている。中高間交流では、上級学校調べや部活動での交流が行っている。  
これらの校種間を越えた連携が、活動の相乗効果により教育の質を高めている。

### 残されている課題について

幼保小中（高）間の滑らかな接続という観点から、連携事業の継続は必要である。幼保小間、小高間、中高間の交流については、各校の実態に応じた取組になるが、特に小中間の交流については、小中学校9年間を見通した教育の観点から、市として意図的・計画的に進めていく必要がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	年間をとおして、継続的に学校間交流を行うことができるよう、各校に働きかけていく。また、生徒指導主任会で確認した小中学校間の生徒指導上の連携に加え、児童会生徒会が主体的に企画立案をし、積極的に事業に参加していくようにする。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	交流のしくみがつくられて事業は定着している。他方で交流の教育的な効果をどのように考えるのか、また事業を担当する教員の負担が適正であるのか、今後も継続していくうえで無理のない見通しをもって取り組んでほしい。／今後も継続的に交流をお願いしたい。

# 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	1 学校教育	施策（中柱）	4 地域に根ざした教育の展開
施策（小柱）	③ 教育にかかわる支援策の推進		

事業名	入学資金貸付事業
事業の目的	経済的理由により入学資金の支払いが困難な保護者に対し、資金の貸し付けを行い、教育機会を均等に与えること。
事業の内容	高等学校、大学及び専門学校の入学金の貸し付けをする。
事業の対象	蕨市民で、経済的な理由により、入学資金の支払いが困難な保護者。

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 相談件数(件)	28	18	30	27	A	30
成果指標 貸与者数(人)	4	6	14	2	D	14
コスト指標 貸与者1人当りの事業費(円)	365,000	243,333	104,286	730,000	D	104,286

## 決算額の推移(円)

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	2,373,000	4,550,000	1,800,000	11,400,000
	人件費	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,460,000
	合計	3,833,000	6,010,000	3,260,000	12,860,000

## これまでの取り組みと成果について

入学資金貸付制度の周知は、奨学金貸付制度と合わせて平成24年度から年間を通してホームページ及び広報紙へ掲載するとともに、市内中学3年生の保護者へ中学校経由で制度の案内配付によるPRを行っている。また、制度の相談があった際には、日本学生支援機構、埼玉県各種制度、教育ローン及び各大学等の行う貸付制度など、時期や内容に応じて、蕨市以外の制度についても紹介し、貸付希望者の状況に合わせた対応を行っている。貸付の審査は保護者からの申請に基づき、随時入学資金貸付審査委員会を開催して決定している。なお、貸付した入学資金の返還については、平成25年度から口座振替を活用いただくことで、新たな滞納者を出さない対策も行っている。

## 残されている課題について

入学資金の貸付額は、近隣市と同等もしくは高めに設定されており、現在見直しは考えていないが、今後も制度を取り巻く状況に留意しつつ、奨学金と合わせて検討を続けることが必要である。また、入学者に兄弟姉妹がいるなどの場合には、制度自体は無利子であるが、過度な貸付を受けることで返還が難しくなり滞納することがないように、相談の時点から対応している。さらに、滞納した場合には連帯保証人が支払うことになることをよく理解していただき、連帯保証人にも申請者と同様に直接の説明を行い、新たな滞納を発生させないことが必須である。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	C (前回評価結果)	入学資金貸付事業は経済的な理由により入学費用の支弁が困難な保護者に対して貸付けを行い、子どもたちが等しく教育を受ける機会を与えるため、今後も事業を継続していく。また、貸付制度を知らないために利用できなかった保護者がいないよう、今後も広報活動について更なる検討が必要であると考える。
	B	

## 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	C	相談件数は多いが貸与者がさまざまな条件の下で少ない状態が続いている。現行基準を維持しつつ、たとえば中学生段階の日常的な支援と組み合わせるなど、視点を広げて制度理念を生かす工夫もあわせて検討することが課題となっている。／貸付にいたらなくても、きめ細かい相談などを今後も続けていただけたらと思う。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	1 市民主体の生涯学習の推進
施策（小柱）	① 推進体制の充実		

事業名	地区生涯学習連絡会事業
事業の目的	市内各地区の生涯学習、生涯スポーツの振興を図る。
事業の内容	地域の生涯学習関連施設や生涯学習活動を行う団体の行事・事業の総合的な調整や各種提言、生涯学習の推進・普及を図る。
事業の対象	市内7地区の生涯学習活動に関する団体の代表者及び教育委員会が特に必要と認める者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 連絡会開催回数（回）	28	30	28	26	A	29
成果指標 延べ参加人数（人）	315	381	398	269	C	344
コスト指標 参加者一人あたりの事業費（円）	2,295	2,134	2,015	2,880	C	2,587

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	90,000	90,000	90,000	90,000
	人件費	723,000	723,048	684,588	799,968
	合計	813,000	813,048	774,588	889,968

### これまでの取り組みと成果について

市内各地区における生涯学習及び生涯スポーツの振興を図るため、地域ごとに関係機関や地域団体を構成員にした組織である。これまで各団体の情報交換や行事等の調整のほか、地区生涯学習フェスティバルや公民館事業に対する提言を行うなど、生涯学習の推進や普及に取り組んできた。さらに積極的に視察研修や委員の世代交代などにより活性化を進めている地区がでてきた。

### 残されている課題について

各地区のコミュニティ委員会や公民館クラブ協議会、フェスティバル等の実行委員会などの類似組織があり、委員や会議内容が一部重複している。平成25年度は特に予定した会議の回数が下回ったことや出席者が減少したことにより、成果指標がさがった。各地区とも他の組織との住み分けや会の運営、さらには活動の担い手の世代交代等に苦慮しており、魅力ある会になるよう会の活性化を図ることが大きな課題である。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	C (前回評価結果)	先進的に取り組んでいるところを参考にするほか、他地区との情報交換を進めていきたい。さらに地区ごとにある推進体制が一層活発化して、機能の充実が図られ、全市的で総合的な推進体制が構築できるように関係課と調整したい。さらには、生涯学習活動の担い手の世代交代や新たな人材の活用が進むように意識して取り組んでいきたい。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	C	全市的な生涯学習の推進・連絡調整という点での形式的な必要性にとどまらず、住民が参加してやりがいがあると感じられる全市的なプロジェクトの実行委員会のように、新たな担い手が育つ機会と並立的に運用する工夫が必要ではないか。／活動の活性化はよいことだが、多くの市民が楽しんで参加できることが望ましい。



## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	1 市民主体の生涯学習の推進
施策（小柱）	② 充実した学習機会の提供		

事業名	現代的な課題 シニア世代講座事業
事業の目的	シニア世代がこれまでの職業や学習等を通じて培ってきた経験を活かし、地域社会で活躍できる機会を設けるとともに、地域の教育力の向上を図る。
事業の内容	地域の仲間づくりや退職後の生きがいづくり等を育む健康系・趣味系・教養系講座を契機に、地域活動の担い手を見据えたボランティア養成講座等を実施する。
事業の対象	市内在住在勤のシニア世代（50歳以上）

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 事業を実施した回数（回）	33	29	31	51	A	50
成果指標 事業に参加した延べ人数（人）	448	552	580	1,080	A	1,134
コスト指標 1人当りの事業費（円）	2,228	2,781	2,831	1,399	A	1,308

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	144,000	189,000	198,000	195,000
	人件費	854,000	1,346,100	1,313,409	1,288,000
	合計	998,000	1,535,100	1,511,409	1,483,000

### これまでの取り組みと成果について

社会的課題の2007年問題を踏まえ、これまで団塊世代講座として教養・健康・趣味の分野で実施し、自主活動団体が設立された例もあった。一方、近年、当該講座への参加者不足も相まって、24年度からは企業人（働く現役）を含めたシニア世代事業として対象年齢を拡大し、「登山教室」や「Facebook講座」など社会的ブームを背景とした講座を開催するなど、同世代の連携や地域への帰属意識を高めている。

### 残されている課題について

講座を主に社会教育関係団体などの協力で開催することで、参加者を各種団体へある程度移行を促すこともできたが、職歴等を活かせる講座や地域活動の担い手を育成する講座の実施、自主活動団体の結成などには至っていない。参加者の割合も73.3%が女性であるため、男性の地域へのなじみにくさの解消や趣味嗜好に伴う活動範囲が地域の枠を超えている方の目を地元に向けさせる講座など、内容の精査が必要。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	シニア世代に関心の高い講座を多く実施し、まずは同世代の地縁社会の広がりを進める。また、保健センターや商工生活室等と連携し、シニア世代向け育児講座やコミュニティビジネス講座等、同世代が家庭や地域で活躍し得る場や自立した団体としての促進を図る。更に生涯学習連絡会等にシニア世代を多く組み入れ、地域に即した事業の方向性を探り理解を広める。
	B	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	これからの地域を支えるシニア層に働きかける重要な事業である。男性の参加率向上が課題とされるが、男性の場合なんらかの有償労働を希望する場合も多い。スキル習得やキャリアを生かすなど学習ニーズを掘り下げることが課題であろう。／総数では女性の参加が多いとのことなので、男性が参加しやすいきっかけ作りをお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	1 市民主体の生涯学習の推進
施策（小柱）	③ 学習環境の充実		

事業名	図書館資料の貸出（予約）事業
事業の目的	図書館資料の貸出は、公共図書館の最も基本的なサービスである。図書館資料の貸出をとおして、高度化、多様化する情報をより多く提供し、利用者のニーズに応える。
事業の内容	通常の来館しての貸出のほか、利用者の求める情報や資料等を、自宅のパソコン等でインターネットにより蔵書検索して予約した資料を提供する。予約した資料は分館でも受け取れる。また、当館が未所蔵の資料は県内の公立図書館のネットワークを活用した「相互貸借」により貸出している。
事業の対象	市内在住・在勤者及び広域利用者（川口市・戸田市・草加市・さいたま市在住）

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 年間実利用者数（人）	10,601	10,442	10,600	10,107	A	10,700
成果指標 年間貸出件数	348,727	339,675	350,000	332,067	A	352,000
コスト指標 貸出1件あたりの事業費（円）	246	232	228	240	A	234

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	48,487,000	41,508,000	42,526,000	45,471,000
	人件費	37,230,000	37,230,000	37,230,000	37,230,000
	合計	85,717,000	78,738,000	79,756,000	82,701,000

### これまでの取り組みと成果について

平成13年度導入の図書館情報検索システムから、インターネットによる蔵書検索や図書資料等の利用予約が可能になり、平成19年度からは3つの分館でも予約本を受け取れるサービスを実施した。平成23年度からはホームページからの図書検索への案内を見やすく改善し、平成26年3月にはシステム入替しWEB予約機能を強化、貸出延長にも対応するとともに、携帯・スマートフォンからの検索・予約にも対応した。また、26年度からは出前講座に図書館ホームページ活用を加えた。

### 残されている課題について

今後、さらなる利用の拡大を図るためには、インターネット予約や相互貸借等の活用促進のPRに努める必要がある。また、シニア層の利用の増加に配慮した選書やわかりやすい配置の工夫、検索端末の使い方の手ほどきや資料探しのサポートの充実とともに未利用者層の掘り起しが必要である。また、貸出上限について現状より多くの資料を貸し出せるように改善することが課題である。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	予約件数は今年度も増えており、またWEB予約だけの件数でも前年度比較で24年度は5.9%増、25年度は9.9%増と年々増加してきている。大活字本を充実させるなど、シニア世代のニーズに応じたサービスの充実とPRに努めるとともに、児童奉仕においては主催行事等を通じて、図書館利用の促進を図りたい。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	予約貸出システムはWEB予約も導入され、資料貸出の安定的な増大がみられる。新聞雑誌閲覧やCD利用、外国人や障害者、利用に困難をもつ人々の利用拡大など、多様な図書館利用のあり方にも注目する必要がある。アウトメディアの観点からも、読書のよさや図書館の活用法などを今後もPRしていただきたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	2 健やかな青少年を育てる環境の充実
施策（小柱）	① 多彩な学習機会の拡充		

事業名	信濃わらび山荘管理運営事業
事業の目的	恵まれた自然環境の中で、集団宿泊による野外活動を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに、市民の憩いの場を提供し、健康の増進を図る。
事業の内容	野外活動ができる施設の提供。
事業の対象	青少年団体・一般市民及び市外の方

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 開館日（日）	205	212	212	212	A	212
成果指標 利用延べ人数（人）	2,456	2,509	2,800	2,512	B	2,800
コスト指標 利用者一人当たりの事業費（円）	9,514	9,152	9,604	9,357	A	9,030

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	21,908,000	21,504,000	22,044,000	23,824,000
	人件費	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,460,000
	合計	23,368,000	22,964,000	23,504,000	25,284,000

### これまでの取り組みと成果について

平成24年度から3年間の『信濃わらび山荘事業推進計画』を策定し、これに基づき施設整備や各種事業を展開している。施設整備面では、平成24年度に老朽化が著しいテラスデッキの全面改修工事を実施した。また、利用者増加につなげるために、「山菜まつり」「親子レタス朝採り体験教室」「トレッキング・ツアー」「高原の澄んだ空気と音楽を楽しむ会」を実施し、参加者から好評を得ている。

### 残されている課題について

管理面では、施設及び設備の老朽化による不具合や敷地内の高齢化樹木の倒壊に対して、対策が必要であり、また、運営面では、利用者がより安心して滞在できる環境づくりや利用者の新規開拓が課題としてあげられる。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	課題を解決していくと共に、川上村や近隣施設との交流や協力関係を深め、魅力ある施設にしていくため、施設整備等の推進、特色あるプログラムの開発、市内企業・事業所等への利用促進を図るなど次期信濃わらび山荘事業推進計画（平成27年度～29年度）に反映させていく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	すでに川上村の協力を得ながら魅力的な山荘事業が試みられている。この構想を発展させ、川上村村民と蔵市民との農業面での産直交流やボランティア滞在など、シニア層向け生涯学習の推進とも結びつけていっそうの山荘活用事業の展開を期待する。／魅力ある企画を今後も実施していただき、より多くの人が利用することを期待したい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	2 健やかな青少年を育てる環境の充実
施策（小柱）	② 青少年健全育成の推進		

事業名	合宿通学事業
事業の目的	親元を離れ、地域と触れ合う共同生活のなかで、自ら考え、判断し、行動する力を養い、家庭の大切さや感謝の気持ち等を理解し、「生きる力」を育む。
事業の内容	学校・家庭・地域の連携・協力のもと、公民館で約1週間、異学年の子ども同士が助け合い、掃除や洗濯、食事作りなどの生活体験を行いながら通学する。
事業の対象	市内在住在学の小学4年生から6年生まで

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 合宿通学実施日数（日）	33	35	35	32	A	35
成果指標 延べ参加人数（人）	642	684	684	642	A	690
コスト指標 1人当たり事業費（円）	8,441	7,322	7,288	11,012	D	10,268

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	1,050,000	1,100,000	1,084,402	1,100,000
	人件費	4,369,000	3,908,000	5,984,552	5,985,000
	合計	5,419,000	5,008,000	7,068,954	7,085,000

### これまでの取り組みと成果について

平成13年度の事業開始より、参加児童は累計1,409名。参加児童の「生きる力」を育み、かつ地域ボランティアや学校関係者、地域の大学生指導員等が連携を取り事業を行うことで、地域の教育力も強化されている。また、さまざまな人と触れ合い、お互いが協力し合って過ごした合宿通学の良き経験を地域に還元しようと、大学生になった元参加児童が指導員として事業に協力している。

### 残されている課題について

食事作りや洗濯、銭湯への送迎など、参加児童が安全に生活体験できるようサポートするスタッフが、参加児童数以上に大勢必要であり、食べ物アレルギーの対応や宿題のサポート、夜間の宿泊など一人ひとりの負担も増えてきているため、協力が得にくくなっている。こうした状況も影響し、当事業に関する職員のかかわりも増えてきている。また、公民館の近隣に買い物のできる場所がなかったり、銭湯がなくなったりするなど、従来どおりの実施が難しい地区も出てきている。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	上記課題のとおり、これまでと同様の合宿通学を行える環境が整わない以上、事業の形態を変える必要がある。また、各館の受け入れ可能人数が20人程度であり、応募者数に対する受け入れ枠が小さい状況にあることや、子どもたちの「生きる力を育む」ために必要なことを考えた場合、公民館での宿泊体験が必須条件にはならないことから、開催場所や内容等の再考が必要であると考え。
	B	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	伝統ある事業であり、理念を生かした適正な継続を期待したい。高校生・大学生との多世代交流や公民館の体験型活動への参加など事業内容を多様化させ、合宿に伴う地元負担を軽減し、安全面にも配慮した事業のあり方を検討していただきたい。／職員、サポートメンバーの負担が大きいのなら、例えば参加人数をもう少し減らすのも一案かと思う。通学しながら調理や洗濯等もやり、宿泊するとしたらやはり公民館での実施が妥当ではないか。



## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	2 健やかな青少年を育てる環境の充実
施策（小柱）	③ 社会参加の促進		

事業名	放課後子ども教室推進事業
事業の目的	放課後等における安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強、スポーツ・文化芸術活動や地域との交流の機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
事業の内容	放課後に、小学校の一時的余裕教室や体育館等の施設を活用し実施する。市内7小学校区ごとに実行委員会を設置し、地域団体等多くの方の参画を得て運営している。さまざまな体験活動を通じて、同学年だけでなく異学年や地域の方との交流も図っている。
事業の対象	事業を実施する小学校に在籍する児童

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 実施回数（回）	200	196	204	205	A	217
成果指標 参加児童数（人）	630	683	750	788	A	750
コスト指標 参加児童1名あたりの事業費（円）	13,223	11,787	12,628	11,578	A	15,581

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	7,702,000	7,421,617	8,473,301	10,928,000
	人件費	629,000	629,000	650,000	757,680
	合計	8,331,000	8,050,617	9,123,301	11,685,680

### これまでの取り組みと成果について

平成19年度から市内全小学校区で実施し、子どもたちの安全・安心な居場所づくりが図られている。各小学校区で地域の方の協力のもと特色ある事業が展開されており、地域で子どもを育てるという機運も高まっている。平成24年度にはこれらの活動が評価され、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞した。各年度の事業開始日はこれまでは5月上～中旬であったが、平成25年度から4月中旬に繰り上げて実施した。また、参加児童の急激な増加により、スタッフの増員を図った（登録数223人・前年度比36人増）。

### 残されている課題について

参加登録児童数が増加し、学校内の活動場所（教室）の確保、机等の備品の購入、新規スタッフの確保が課題である。また、今後も事業を安定して継続するために、スタッフの資質の向上を図る研修等を充実させる必要がある。事業開設から8年目を迎え、初年度に整備した教室の備品に老朽化が目立ってきているため、順次買い替え等の対応を実施したい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	子どもたちを地域で育む環境づくりは、今後ますます重要となる。教室を運営していくうえでの課題の研究や、地域との連携、更に地域の方が参画できるような機運の醸成を行うことで、事業の充実を図っていききたい。 また、施設面での充実も研究していききたい。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	参加児童数が増大しており、保護者からの期待も大きい事業として充実が望まれる。文部科学大臣表彰を受賞するなど、地域の教育力が生かされた内容になっている。スタッフの増員とシニア層の生涯学習とを結びつける視点も重要であろう。／子どもの居場所づくりと地域の方との交流の場として機能している。スタッフの負担増にならないようなプログラムも取り入れていただきたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	2 生涯学習	施策（中柱）	3 家庭教育の支援
施策（小柱）	① 家庭教育の支援		

事業名	家庭教育学級事業
事業の目的	子どもたちの健やかな成長、発達を促すため、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力向上を図る。
事業の内容	リトミック、応急処置、工作、調理、クリスマス会などの季節イベントなど様々な学習を通して、乳幼児をもつ保護者の家庭教育の学習機会の充実を図る
事業の対象	乳幼児をもつ親（2,3歳児の保護者と特定した講座が中心であるが、1～3歳児というように年齢の幅をもたせたもの、1歳児、2歳児と対象を絞ったものもある）

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 7館の家庭教育学級回数	111	156	138	147	A	147
成果指標 事業に参加した延べ人数	3,451	4,323	3,804	3,853	A	3,853
コスト指標 参加者一人当たりの事業費（円）	922	915	855	930	A	964

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	1,266,000	1,805,040	1,606,450	1,745,225
	人件費	1,914,000	2,151,837	1,974,921	1,967,229
	合計	3,180,000	3,956,877	3,581,371	3,712,454

### これまでの取り組みと成果について

全公民館とも家庭教育学級は事業の柱に位置づけています。2,3歳児の保護者を対象にしたものが中心ですが、対象を広げたり、年齢を低くした講座など年々充実してきています。子育てに必要な多様なメニューが主流ですが、同一の講師による連続講座のところもあり、それぞれ館の特色を出しています。さらに専門的な学習、保護者が自由におしゃべりしたり集える広場なども充実してきています。（本調査では除きました。）

### 残されている課題について

他公民館と事業開催日が重なることがあるため他館との調整が必要である。  
季節により欠席が増えることもあり、高い出席率を維持するため、雰囲気づくりや時代に合ったプログラムの開発、講座終了後の参加者のネットワークづくりなど内容を充実させていく。また、同じ人が複数の講座に参加していることが多く、孤立した子育てをしている親、参加したくてもできないなど、本当に必要としている人に参加してもらうには、関係機関との連携を深めるなど、協議・研究し家庭教育学級のあり方についての見直しが必要である。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	職員同士の協議・研究や他館と連携を取りながら内容の充実を図っていき たい。また関係機関との連携や参加できない保護者への情報提供の充実、参 加者同士の交流の場の促進などにより地域力全体の教育力向上に努めていき たい。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	家庭教育学級という側面と子どものいる家庭の支援という側面を併せ持つ事業になってきている。保護者同士のネットワークづくりやサークル活動とともに、保健師や保育士、栄養士なども連携し、子育て相談機能を充実させる取り組みも期待したい。／充実していると思う。参加したくてもできない人への情報提供をぜひお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	1 芸術文化活動の振興
施策（小柱）	① 創作活動への支援		

事業名	地区生涯学習フェスティバル事業
事業の目的	公民館で活動する芸術文化に関わる利用団体やクラブに対し、活動の成果を発表する機会の充実や市民の創作意欲のさらなる活性化を図るとともに地域住民との交流とふれあいを深めます。
事業の内容	公民館を拠点に活動している団体やクラブが日頃の活動の成果発表や作品の展示などを行うための場の提供をします。
事業の対象	公民館で活動する芸術文化に関わる利用団体やクラブ。

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 発表団体の数（件）	236	303	313	299	A	314
成果指標 延べ来館者数（人）	18,967	17,896	19,930	17,172	B	19,020
コスト指標 1人当たりの事業費（円）	88	83	75	91	B	78

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	700,000	700,000	700,000	700,000
	人件費	973,000	787,000	860,000	777,000
	合計	1,673,000	1,487,000	1,560,000	1,477,000

### これまでの取り組みと成果について

各地区の住民と公民館利用者団体やクラブ等で実行委員会を組織して「地区生涯学習フェスティバル」を開催し、活動の成果発表や交流の場を提供している。来館者数も毎年ほぼ安定しており、一定の認知度があるものと考えられる。また、公立・私立の学校・幼稚園等をはじめ、新たな団体・組織の参加や連携なども、少しずつだが、見受けられることができる。

### 残されている課題について

ここしばらくの間、公民館で活動している各団体の会員の高齢化、固定化傾向が続いており、会員数も減少しつつある。多くの新規参画をすぐに求めるのは現実に難しいが、「活動発表の場」として従来の利用者層も大事にしつつ、新たな利用者層の掘り起こしに継続して努めていきたい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	H25年度は来場者目標がやや高めの設定だった点やほぼ全地区が雨天等だったこともあり、今回はB評価とした。 利用者や地域の団体などの活動成果の発表の場として、今後も根気よく参加を働きかけていくとともに、施設や設備の整備のほか、催しや発表方法の工夫、新たな利用者や連携先の発掘、事業のPR、そして団体活動の支援を今後も継続して行っていく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	フェスティバル参加者数は多く、公民館活動の日頃の成果が集約されて充実感がある事業である。利用団体会員構成の若返りや新たなサークルの発足、男性の参加など、学習文化交流の場としての公民館活動をさらに活性化することが課題である。／活動発表の場、地域の交流の場として、今後も開催をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	1 芸術文化活動の振興
施策（小柱）	② 鑑賞機会の充実		

事業名	蕨市公募美術展覧会事業
事業の目的	広く市民の美術への理解と創造力の啓発をはかり、豊かな人間性を養い、郷土文化の振興に寄与することを目的とする。
事業の内容	蕨市・蕨市教育委員会・蕨市文化協会が主催。応募作品について審査を行い、入選作品のみ展示を行う。なお、審査のうえ、優秀な作品には褒賞を行う（知事賞、市長賞、教育長賞、文化協会会長賞等）。また、招待作品（片品村や市内中学生の作品）の展示も行う。
事業の対象	作品の応募は、市民及び市内在勤在学者で16歳以上の者又は蕨市内の文化団体会員 展示期間中の観覧は自由（入場無料）

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 応募作品数	158	170	200	161	B	180
成果指標 美術展観覧者数	1,795	1,000	1,000	1,200	A	1,200
コスト指標 来場者1名あたりの事業費（円）	233	410	458	352	A	405

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	224,000	214,843	226,820	234,200
	人件費	196,000	196,000	196,000	252,000
	合計	420,000	410,843	422,820	486,200

### これまでの取り組みと成果について

平成24年度から会場を蕨駅前文化ホールくるる・旭町公民館に移して開催。立地上の利便性からたいへん好評であり、平成25年度の来場者の増加につながったと考えられる。

また、若年層への芸術文化の浸透を図るため、市内3中学校生徒の作品を招待作品として展示し、うち2点を「中学生奨励賞」として表彰した。さらに「市民がつくりあげる美術展覧会」づくりの第一歩として、来場者による投票を行い、上位の作品を「市民奨励賞」として表彰した。

### 残されている課題について

美術部門においては、平成24年度から市内中学校生徒の作品を展示し、また25年度はその中の優秀な作品を表彰しているが、他部門（工芸、書道等）にも拡大し、若年層への芸術文化の更なる浸透を図りたい。

また、市民への浸透という点では、平成25年度から広報誌やホームページ等における入賞作品紹介を行う等、事業の周知を図っているが、これをより充実していきたい。併せて、展示日程や開場時間についても検討したい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	市民文化のいっそうの振興と醸成を進めるために、市民が優れた芸術文化に触れる機会の充実を図るとともに、市民が主体的に芸術文化活動を展開できるような環境づくりが重要である。「市民がつくりあげる美術展覧会」を目指し、今後とも蕨市文化協会と連携し、施策を展開していきたい。
	B	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	B	応募作品数が目標値より少なかったが、観覧者数は多く、定着した事業といえる。文化協会と連携して市民参加型の形態を広げること、市内の中学、高校と連携してゲスト作品や観覧を働きかけることなどいっそうの充実をはかっていただきたい。／より一層の充実と、来場しない人へも受賞結果など事後の広報をお願いしたい。



## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	1 芸術文化活動の振興
施策（小柱）	③ 芸術文化の地域づくりへの活用		

事業名	地域に音楽を広めるコンサート開催事業
事業の目的	地域に音楽を広めながら、地域の人とのふれあい交流を深め、生の音楽に触れる機会を設けることなどを目的とする。
事業の内容	地域の演奏家などの出演により、生の音楽に触れることや公民館活動団体の発表の場としてのコンサート開催により、地域の人とのふれあい、交流を深める。
事業の対象	蕨市在住・在勤の方ほか

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 コンサートの開催数（回）	12	16	10	12	A	11
成果指標 コンサートの参加者（人）	2,572	2,713	2,640	2,192	B	2,360
コスト指標 1人あたりの事業経費（円）	695	692	705	735	A	739

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	190,000	395,000	187,000	250,000
	人件費	1,788,000	1,877,000	1,426,000	1,496,000
	合計	1,978,000	2,272,000	1,613,000	1,746,000

### これまでの取り組みと成果について

各館とも外部からの出演者招聘や利用団体・地域団体等の出演形式など、志向を凝らし、コンサートとして独立したものや、生涯学習フェスティバルの中に盛り込んだもの等、おおむね年に1～3回程度のコンサートを開催しており、公民館の主要事業のひとつとして定着している。信濃わらび山荘を使った本格的なコンサートは2回目となり、電子ピアノを運んでのコンサートではソプラノの歌声が高原の雰囲気と融合した。この成功により平成26年度山荘に電子ピアノの予算が確保された。また音大生グループによる演奏会も開催出来、若い観客も呼び込むことが出来た。

### 残されている課題について

外部からの出演者招聘形式のものでは、限られた事業費で出演者を探す困難さはあるが、今後も魅力ある企画や地域にゆかりのあるアーティストの発掘などに努め、地域からの期待に応えられるよう、内容の充実に取り組んでいきたい。また、周知方法や集客数の確保などの情報を全館で共有し、改善を図りたい。同時にコンサートの企画にあたり著作権についても全館で検討し共通の理解としておく必要があると思われる。さらに利用団体参加者の高齢化についても新たな参加者を募るための体験講座の開催など、全館をあげて検討を行う必要があると思われる。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	B (前回評価結果)	今年度も各館志向を凝らした企画で開催し目標値を上回る開催回数となったが参加者数は天候に左右され減となった。平成24年度との比較により評価結果は、Bとしたが地域住民の認知度も高く、音楽によるまちづくりを推進している。今後は「音楽によるまちづくり懇談会」の提言も参考に、より一層の充実を図るために事業担当者会議や館長会議でノウハウを共有して行きたい。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	公民館でコンサートが開催されることで音楽に親しみ、日常は公民館に足をむけない人も来館するきっかけとなる。わらび山荘での生演奏も好評である。中学校・高校の音楽部の演奏やセミプロ的な演奏グループの発掘など、親しめる地域コンサート事業として充実をはかっていたきたい。／工夫され、実績を伸ばしていただいた。今後もより多くの市民が音楽を楽しめるようより一層の充実をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	2 地域に根付いた文化の保存と活用
施策（小柱）	① 地域資料の収集・調査研究		

事業名	蕨市の歴史・文化に関する情報提供事業
事業の目的	蕨市の歴史・文化を幅広く紹介し、市民の地域史研究や文化財めぐり等に対する支援を図るため、地域資料の収集と調査研究を進め、情報提供の充実に努める。
事業の内容	文化財マップ・資料紹介パンフレット等の作成及び配布
事業の対象	歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館利用者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 作成した枚数（枚）	9,200	9,200	（種類） 20	21	A	（種類） 23
成果指標 配布率（%）	93	94	（配布枚数） 9,000	8,600	A	（配布枚数） 9,000
コスト指標 1枚当りのコスト（円）	90	78	79	77	A	73

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	432,000	496,000	437,500	427,040
	人件費	395,000	222,000	222,000	222,000
	合計	827,000	718,000	659,500	649,040

### これまでの取り組みと成果について

歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館見学パンフレット及び展示解説用パンフレット、文化財マップ、研究紀要等を作成している。また、平成20年度より、職員手作りによる市内歴史ガイドパンフレットを作成し、配布している。平成25年度は「わらびの昔話」を紹介するパンフレットを作成した。印刷物はすべて無償配布で、利用者に好評である。

### 残されている課題について

調査研究をより一層進め、情報提供の充実に努めるとともに、研究紀要等で市民の研究発表の場を提供していきたい。また、「わらびの昔話」など子どもたちにも親しみやすい内容のパンフレットも作成していきたい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	街歩きに訪れる方や、旅行会社によるツアー利用者が増えていることもあり、情報提供の充実により一層取り組んでいきたい。また、研究紀要等での市民の研究発表の場を提供していくとともに、資料館職員が依頼されて行った歴史講座の概要等をホームページで報告し、研究成果の発表の場として活用していきたい。
	B	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	蕨の歴史・文化を紹介することで、市内外の関心も高まっている。主催講座の充実や文化財ガイドボランティア、中山道の各宿場との交流事業などさらに研究や市民活動の発展が期待される。／引き続き情報提供や、ホームページの活用をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	2 地域に根付いた文化の保存と活用
施策（小柱）	② 文化財に触れる機会の充実		

事業名	特別展等開催事業
事業の目的	本事業は、特別展等の企画事業を開催することで、文化財や郷土の歴史、美術等に触れる機会の充実を図る。
事業の内容	蕨市の歴史や文化、蕨市ゆかりの芸術家の作品を紹介する特別展等の開催。
事業の対象	歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館利用者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 特別展等の開催数（回）	4	4	4	4	A	4
成果指標 利用者数（人）	20,715	24,658	25,000	24,534	A	25,000
コスト指標 1人当りの事業費（円）	131	127	115	113	A	121

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	1,921,000	2,312,000	1,938,720	2,191,256
	人件費	789,000	822,000	822,000	822,000
	合計	2,710,000	3,134,000	2,760,720	3,013,256

### これまでの取り組みと成果について

蕨市が甚大な空襲被害を受けた歴史的経緯をふまえ、開館以来の継続事業として「平和祈念展」を毎年開催している。また、蕨市の歴史や文化、蕨市ゆかりの芸術家の作品を紹介する特別展を開催し、蕨市内外から多くの見学者が訪れている。平成25年度は、10月から12月にかけて「昆虫標本」展を開催し、子どもたちや家族連れのお客様に好評であった。

### 残されている課題について

さらなる企画内容の充実を図り、より幅広い年齢層の市民に利用していただくための工夫を行っていくとともに、市内小学校への広報活動にも努めていきたい。また、蕨市ゆかりの芸術家やアマチュア作家の人材発掘にも取り組んでいきたい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	「平和の尊さ」を伝えていくために開催している「平和祈念展」の内容のより一層の充実を図り、蕨市ゆかりの芸術家の人材発掘を進めていくとともに、広報活動の充実にも一層取り組んでいく必要がある。なお、平成26年度特別展は、初の試みとして、織作家・木彫作家・ガラス工芸作家によるモダンアートの展覧会を3月～4月にかけて開催する予定である。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	来館者数も多く、市民の関心を高める事業として定着している。企画内容の充実とともに学博連携の試みなども取り入れて、子どもの参加・体験事業としての一面も付加した事業の充実を期待する。／「平和祈念展」「特別展」ともに今後も続けていただきたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	3 文化振興	施策（中柱）	2 地域に根付いた文化の保存と活用
施策（小柱）	③ 歴史文化の地域づくりへの活用		

事業名	歴史民俗資料館分館公開事業
事業の目的	歴史文化資源としての歴史民俗資料館分館を公開し、市内文化財めぐりの拠点とすることで、地域づくりに活用する。
事業の内容	歴史民俗資料館分館の活用
事業の対象	歴史民俗資料館分館利用者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 開館日数（日）	296	294	292	294	A	294
成果指標 分館利用者数（人）	10,413	10,920	13,000	13,983	A	14,000
コスト指標 1人当りの事業費（円）	366	357	310	288	A	290

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	2,807,000	2,896,000	3,027,456	3,048,192
	人件費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
	合計	3,807,000	3,896,000	4,027,456	4,048,192

### これまでの取り組みと成果について

歴史民俗資料館分館は、明治時代の建造物と庭園をそのまま展示空間として位置付け、平成15年9月1日に開館。歴史民俗資料館とともに、市内文化財めぐりの拠点として好評を博している。  
平成25年度は、中仙道蕨宿商店街振興組合の主催により、11月に「中仙道蕨宿 光と音のページェント」、3月には「宿場の雛まつり」が開催され、共に好評であった。

### 残されている課題について

明治時代の建造物であるため、施設の耐久性等から利用方法に限界はあるが、当時の歴史的雰囲気を伝えていくよう努めるとともに、より多くの市民に利用していただけるよう広報活動の充実に取り組んでいきたい。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	明治時代の雰囲気を今に伝える施設として、より多くの市民に活用していただけるよう広報活動の充実に取り組んでいくよう努めていきたい。
	B	なお、市では国の計画認定に向け協議中の蕨市中心市街地活性化基本計画において、蕨宿「食」の交流拠点整備事業を計画している。この事業は、商工生活室が事務局となっており、分館を保存しながら、飲食・休憩機能を付加することにより賑わい創出につなげていくというものだが、事業内容の検討を行っている段階であり、動向を注視していく必要がある。

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	来館者の大幅増加をみており、商店街振興組合との連携も有意義な展開となっている。「食」をテーマにした取り組みは、地域農業の歴史や伝統食、行事食などと関連性が深く、さらに市民の関心を高める取り組みになると思われる。／歴史民俗資料館分館の建造物と庭園の保存に努めた上で、地域づくりへの活用をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蕨市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	4 スポーツ・レクリエーション	施策（中柱）	1 スポーツ・レクリエーション活動の振興
施策（小柱）	① 生涯スポーツ推進体制の整備・充実		

事業名	スポーツ・レクリエーション団体支援事業（体育協会）
事業の目的	幅広い年代の市民が参加できるスポーツ・レクリエーション行事の実施及び各団体活動の一層の充実を図るため、必要な支援を行うもの
事業の内容	体育協会への補助金交付及び、活動・運営に対しての支援を行う。
事業の対象	蕨市体育協会

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 年間行事数	14	13	14	11	B	14
成果指標 参加延べ人数（人）	7,979	6,642	8,000	3,851	D	8,000
コスト指標 参加者1人当たりの事業費（円）	873	1,049	871	1,810	D	862

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	2,520,000	2,520,000	2,520,000	2,520,000
	人件費	4,453,000	4,453,000	4,453,000	4,380,000
	合計	6,973,000	6,973,000	6,973,000	6,900,000

### これまでの取り組みと成果について

これまで体育協会に対して補助金交付や協会事務の補助を通じて、体育協会の活動支援を実施してきた。それにより、体育協会による各競技団体や地域5支部への活動支援や年間を通じた各種スポーツ行事の開催を通じて、競技スポーツ及び生涯スポーツの推進が図られる結果となっており、体育協会への支援は、蕨市の競技スポーツ及び市民の生涯スポーツの推進に寄与している。

### 残されている課題について

体育協会主催事業は、参加者数や年齢層が硬直化しており、近年協会内において事業内容を見直す検討がなされている。今後こういった協会の動きに対して、助言等の支援も必要となる。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	C (前回評価結果)	生涯スポーツの推進には、体育協会との連携は不可欠である。今後も幅広い年齢層の市民が数多く参加できる各種スポーツ行事の開催等、体育協会が市民の様々なニーズに対応できるよう協議しながら活動に必要な支援を行っていく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	C	雨天中止の影響もあり参加延べ人数が前年度からかなり減少している。体育協会が主体となる事業を支援することは重要であるが、レクリエーションスポーツや子どもスポーツなど、参加者の幅を広げる周辺事業を連携して取り組む必要もあろう。／継続すべき事業は引き続き支援いただき、見直す余地のある事業については必要な助言等をお願いしたい。



## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	4 スポーツ・レクリエーション	施策（中柱）	1 スポーツ・レクリエーション活動の振興
施策（小柱）	② 活動機会の充実と地域づくりの推進		

事業名	プール管理運営事業
事業の目的	スポーツ・レクリエーション活動機会を提供し、市民の健康増進・楽しさの創出に寄与する
事業の内容	塚越・中央の2箇所の市民プールの管理及び運営
事業の対象	プール利用者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 年間開設日数（日）	51	53	53	53	A	48
成果指標 利用延べ人数（人）	12,984	16,898	17,000	17,547	A	16,000
コスト指標 利用者1人当たりの事業費（円）	1,132	891	885	857	A	921

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	11,929,000	12,289,000	12,270,024	11,963,000
	人件費	2,774,000	2,774,000	2,774,000	2,774,000
	合計	14,703,000	15,063,000	15,044,024	14,737,000

### これまでの取り組みと成果について

平成25年度は、無料水泳教室や各種イベント（ポリネシアンショーや夏祭り等）の開催、浮き輪やゴーグル、タオル等の物販により、利用者サービスの向上を図ってきた。プールの運営は天候に左右されるが、比較的天候に恵まれたこともあり、利用者数は前年比で649人の増であった。

### 残されている課題について

施設の老朽化により、補修を施しても塗装の剥がれやひび割れが施設内に数多くみられるため、利用者特に子供の安全対策には施設管理及び運営の両面で細心の注意が必要である。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	利用者が安全で楽しく水とふれあえる場を提供するために、指定管理者と一層の協力関係を築き、安全面では、施設及び設備の管理と計画的な改修を実施し、集客面では、催しやPR方法に工夫をしていく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	市民の利用が増大しており、教室事業やイベントの取組も成果をあげている。利用者増による衛生管理、安全指導などの一層の徹底を業者と連携しておこなうとともに、幼児や高齢者の見守りなどスタッフの研修も強化していただきたい。／主に夏休み中の貴重なレクリエーション施設であり、長く利用できるよう計画的な改修をお願いしたい。

## 平成26年度 施策評価シート

計画	第4次蔵市総合振興計画（改訂）	第2節	豊かな人間性を育むために（教育・文化）
大柱	4 スポーツ・レクリエーション	施策（中柱）	2 健康・体力づくりの推進
施策（小柱）	① 健康・体力づくりの推進		

事業名	健康・体力づくり推進事業
事業の目的	誰でもできる簡単なスポーツ・レクリエーション教室等を実施することにより、市民の健康増進、体力向上を図る。
事業の内容	ウォーキング大会の他、健康スポーツを推進するための行事の開催
事業の対象	市内在住在勤者

施策（小柱）目標	平成23年度	平成24年度	平成25年度		達成状況	平成26年度 目標値
			目標値	実績値		
活動指標 事業数	1	2	3	3	A	3
成果指標 参加延べ人数（人）	60	174	200	185	A	200
コスト指標 参加者1人当たりの事業費（円）	1,250	576	494	540	A	630

### 決算額の推移（円）

決算額 の 状況	年度	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
	事業費	0	28,300	29,460	36,000
	人件費	75,000	72,000	70,500	90,000
	合計	75,000	100,300	99,960	126,000

### これまでの取り組みと成果について

これまで、市内ウォーキング・リフレッシュスポーツ教室・ウォーキング&軽スポーツ教室等の事業を展開し、市民の健康・体力づくりの推進に寄与してきたが、市民体育館における指定管理者の自主事業との重複を理由に事業の統合、また、更なる参加者増に向けたウォーキングコースの市外への変更等の見直しを行ってきた。また、健康・体力づくりのきっかけづくりや体力の確認の場として、体力テストも実施しており、市民の健康や体力の維持増進の一助となっている。

### 残されている課題について

既存事業の内容、周知方法、運営方法等の見直しをするとともに、より多くの市民が参加できるような新規事業についても検討していく必要がある。

総合 評価	評価結果	評価結果をふまえた今後の取り組み
	A (前回評価結果)	市民体育館の指定管理者やスポーツ・レクリエーション団体との連携やスポーツ推進委員などの人材を活用し、広く市民の健康増進や体力向上を図るための事業展開について検討していく。
	A	

### 外部評価結果

外部 評価	外部評価結果	評価コメント
	A	徐々に取り組みを充実させて参加人数の増加をみている。ウォーキングや健康体操は一定の指導のもとで実施してはじめて成果をあげることができる。自主的な運動機会の少ない高齢者も参加できるように出前トレーニングなどの工夫も期待したい。／より多くの市民の参加を実現するには、例えば学校、幼稚園などに出張指導するなど（保護者等対象）、既存の運営方法にとらわれない手法もよいのではないかと。